

# 神のおとずれ

日本聖公会 神戸教区報



2017年  
3月号

発行所  
神戸教区事務所  
TEL 078(351)5469  
FAX 078(382)1095  
<http://www.nskk.org/kobe/>

発行責任者  
司祭 芳我秀一

印刷所  
文明堂印刷所

## 大齋節

「わたしたちの信仰見つめ直そう…」

司祭 シモン 原田 佳城



### 十字架と復活を仰ぎつつ

3月1日の大齋始日(灰の水曜日)をもって今年の大齋節が始まります。大齋節は「悔い改めの季節」とも呼ばれています。

大齋節は、イースター前の、日曜日を除く40日前の水曜日からはじまります。

40というのは、聖書では意

味のある数字で、旧約聖書でノアの箱舟の時に雨が降り続けたのが40日40夜、エジプトを脱出して奴隷から自由になった人々が、荒野を彷徨ったのが40年、イエスが荒野で誘惑を受けたのが40日間とよく使われる数字です。イエスが苦しみを覚える大齋節にもこの40日というのをういたのです。イエスが十字架にかかり、死んで葬られ、復活された、「主の過ぎ越し」を祝う前の、大切な備えの期間です。

大齋節の40日間はもともと断食の日数でした。大齋節には、断食に象徴される回心Ⅱ主に立ち返ること、さらに具体的に「祈り、節制、愛の行い」が強く求められています。こ

の大齋節の期間、わたしたちはイエスがわたしたちの罪のために十字架にかかり、死んで復活されたことに思いを向けながら過ごします。このキリストの十字架と復活こそ信仰の原点であるからです。

### 悔い改めと和解のとき 大齋節のもう一つの意味

教会では「灰」は、大齋節において悔改めのシンボルとして用いられます。灰の水曜日に教会では、灰を頭にかける式が行われます。この灰は、前の年の「復活前主日」に聖別した棕櫚の十字架を各家庭で飾っておき、それを集めて燃やして作ります。灰は、旧約聖書の時代から回心のしるしでした。わたしたちが「塵にすぎないこと」Ⅱ罪びとであり、滅びゆく人間であること、減びゆく人間を生かして自覚し、その人間を味わうもてくださる神の愛を味わうものです。ちなみに、昔は大齋節の断食が厳しく遵守され、

肉を食べることが一切許されなかったため、その始まりに先だつ数日は「カーニバル」(肉よさらば)と呼ばれるようになったと言われています。

十字架のキリストに思いを向けることはとても重要です。

しかし、それと同時に、使徒パウロが「信仰を持って生きているかどうか、自分を反省し、自分を吟味しなさい。」と、コリントの教会のキリスト者たちに呼びかけているように、十字架のキリストに向かいながら、自分自身の信仰をもう一度吟味し、神さまと和解し、人と和解し、自分の信仰生活をしっかりと整えていくことも大切です。

ヘブライ人への手紙には次のように記されています。「すべての人との平和を、また聖なる生活を追い求めなさい。聖なる生活を抜きにして、だれも主を見ることはできません。神の恵みから除かれることのないように、また、苦い根が現れてあなたがたを悩まし、それによつて多くの人が汚れることのないように、気をつけなさい。」信じてさえば良いというのではなく、信じているからこそ、わたしたちがどう生きるか、どのよう

に信じるのかということが大切なのです。

神の愛を受けたのだから

ヨハネによる福音書3章16節には、「神は、その独り子をお与えになつたほどに、世を愛された。独り子を信じる者が一人も滅びないで、永遠の命を得るためである。」と告げられています。

### 受難から復活の朝へ

大齋節の祭色は紫です。これは悔い改めと受難、救いの待望を表す色です。この大齋節からイースターへと続く歩みは、キリストに結ばれたわたしたちの人生も、受難から復活へ、死から命へと続くのだということを教えています。

(明石聖マリア・マグダレン教会  
牧師・洲本真光教会管理)